

令和七年度一般選抜試験

個別学力試験問題（前期日程）

国語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(柄谷行人『日本精神分析』による)

(注)

弥助——小説『入れ札』に出てくる忠次の子分。逃げる忠次に従う三人の子分を選ぶ入れ札を行う際、弥助は九郎助に札を入れるかのような意味ありげな微笑を見せた。九郎助は弥助が自分の名前を書いた札を入れると考え、自分で自分の名前を書いた札を入れるが、結果がわかると、九郎助に入れられた札は自分の入れた札のみであった。九郎助は自分で自分に札を入れたことを言うわけにはいかず、弥助を責められないというジレンマに陥る。

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「彼が忠治に興味があつたからではなくて、別の問題に関心があり、それを書くために忠治のケースを選んで適当に書き換えたということの意味しています」について、菊池寛が関心のあつた「別の問題」とは何か、具体的に答えよ。

問三 傍線部B「形」が人間を規定する」について、『形』という作品の内容に即して傍線部の内容を説明せよ。

問四 筆者の考える、菊池寛の小説『入れ札』と『形』の共通性について、説明せよ。

問五 傍線部C「この作品が興味深いのは、秘密投票を導入することがいかに個人を内面的に変えてしまうか、というより、内面性そのものを作り出すかということです」について、筆者の考える、秘密投票が、個人を内面的に変えてしまう、または、内面性そのものを作り出す背景について、説明せよ。

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、
著作権の関係により、公開しません。)

(安藤宏『私』をつくる 近代小説の試み』による)

問 傍線部のようなことが起こるのはなぜか。本文に即してわかりやすく説明せよ。

【下書き用】

--	--	--	--	--

三

次の文章を読んで、問いに答えよ。

頃は二月の二十日ばかり、ある人^Aに契りしことありて、その人がり行かむとて立ち出づるに、有明の月の影残りてえも言はずおもしろきに、^(注1)すくすくとも行きやらぬを、^(注2)門田の雁^{かり}も今はとて帰るにやあらむ、声々にこそ鳴きたちしが、やがて雲井に高く聞こえければ、

帰る雁声の行方もかすみけりおぼろ月夜のむら雲の空

^(注3)とうち誦^ずしつつ、^Bこころざしの所に行きて、^Cしかじかのよしを言ひて、「なほ花の頃ならば、いかにいみじからむ」と言へば、主^{あるじ}、「否^{いな}とよ。^D春のあはれはこの頃に限り侍るなり。花の咲きぬれば散らむことのまづ思ひやられて、^(注4)なかなか物思ひのかずまさりぬべし。されば在^あ五中將の、たえて桜のと詠まれしものを」など、何くれと物語りするに、はや山際^{やまぎは}に紫だちたる雲の白くなりゆくけしき、また言はむかたなし。

(千家尊澄^{せんげたかすみ}『松壺文集』による)

(注1) すくすくと——速やかに、さつさと。

(注2) 門田——家の門の前にある田。

(注3) うち誦しつつ——口ずさみながら。

(注4) 在五中將の、たえて桜のと詠まれしものを——在原業平が、「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」と詠んだことを言う。『古今和歌集』『伊勢物語』に見られる。

(注5) 山際に紫だちたる雲の白くなりゆくけしき——『枕草子』一段の「春は曙^{あけぼの}。やうやう白くなり行く、山際少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる」を踏まえた表現。

問一 傍線部A「ある人に契りしことありて、その人がり行かむとて立ち出づるに」を口語訳せよ。

問二 傍線部B「しかじかのよし」とは、どのような内容を指しているか。本文に即して具体的に説明せよ。

問三 傍線部C「なほ花の頃ならば、いかにいみじからむ」について、ここで筆者が言おうとしている見解はどのようなものであるか。わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部D「春のあはれはこの頃に限り侍るなり」について、主はどのような根拠によつてこのように主張しているのか。わかりやすく説明せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。（設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある）

呂蒙字子明、汝南富陂人也。少南渡、依姊夫鄧当。当為孫

策將、一數討山越。蒙年十五六、竊隨當擊賊。當顧見大驚、呵

叱しつスルモ。不能禁止。歸以告蒙母。母恚欲罰之。蒙曰、「貧賤難

可居。脱誤有キコトル功、富貴可致。且不探虎穴、安得虎子」。母哀而

舍之。時當職吏以蒙年小、輕之。曰、「彼豎子何能為。此欲以

肉餒虎耳。」他日与蒙会、又蚩辱之。蒙大怒、引刀殺吏。出

走、逃のがれいふ。子鄭長家。出因校尉袁雄自首。承間為言。策召見奇

之、引置左右。

（『三国志』による）

(注) 呂蒙——後漢末の武将。孫策とその弟孫権(後の呉皇帝)に仕える。 汝南——漢代の郡名。

富陂——県名。今の安徽省阜南県。

孫策——後漢末の武将。長江下流域に割拠した。死後、弟の孫権が統治を引き継いだ。

山越——後漢末に中国南部の山岳地帯に住んでいた異民族。 呵叱——大声でしかりつける。

職吏——配下の役人。 豎子——子供。若造。 餒——養う。食べ物を与える。

蚩辱——嘲笑して侮辱する。 邑子——同郷の人。 校尉——武官の官職。

承問為言——袁雄は折を見て呂蒙のことを孫策にとりなした。

問一 傍線部1「数」、2「与」の読みを答えよ。送り仮名があれば、送り仮名を含めて答えよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 二重傍線部A「不能禁止」を平仮名だけで読み下せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問三 二重傍線部B「以肉餒虎」について、呂蒙がどうなることを言っているのか。簡潔に答えよ。

問四 二重傍線部C「引置左右」について、孫策はなぜそうしたのか。簡潔に答えよ。